口減少についての取組みは

3年　角田 蒼斗さん

率低下や死亡数の増加)の2つがある。平成
人ほどに対して死亡数は200人以上。年間
加えて、就職や入学で県外に転出してしまっ
で1番出生率が低い東京に人が集中している
ればいけない。
ける体制作りが必要。まずは町の一次産業で

来みなさんがさまざまな職を選択できるよう
でどこにいても仕事ができたり、SNSで全
になってきている。町に残ってもなんら問題
止められるのではないかと考えている。

将来農業の選択肢を増やすため、小中学生に田植え稲刈り体験をさせたり、会社を立ち上げてブランド化するのはどうか

質問者：2年　外﨑 澪さん

「魚沼産のコシヒカリ」は有名だがコシヒカリ自体は米の品種に過ぎない。魚沼の人たちがよいお米、おいしいお米を作ろうと努力した結果、長い時間をかけて周りから認められたのが「魚沼産のコシヒカリ」というもの。ブランドを作るのではなく良いものを作るとブランドになっていくということを覚えてほしい。

稲作体験の機会は必要だと思うが、機会を待つのでなく家が農家の生徒は手伝いをしたらいいと思う。家族がやっていることを客観視して「自分だったらこうやるのに」という気づきがあれば、農業系の学校で学んでみたりする意味が出てくる。漁業も一緒。

また、ただ作って売るのではなくどう売ればより売れるか、消費者はどういうものを欲しがっているか、経営まで考えるといいと思う。

るという話が出ているが、補助金はでる
ピン人中学生と会話する機会がほしい

桜さん

ごったのかというと、「さまざまな言語を話
を使ってきた歴史がある」から。だから母
がある国ということ。
で人口が増えている国。今後の発展も見込
子たちと話したいというのはとても嬉しい

討中だが、私としてはぜひ留学して知見を
ために留学したいという子がいれば、費用
のかわり、ちゃんと勉強して、いろんなこ

宮越家静川園について、SNSでの発信のほか、理解を深めるために小中学生のボランティアで掃除ができないか

質問者：3年　長利 幸直さん

ぜひボランティアに取り組んでください。ただ、ボランティアなんてそう意気込んでするものじゃない。例えば小泊の海に遊びに行ったとき目についたごみを拾うとか、毎回でなくとも一人ひとりが自発的に行動するのが大事。機会を作ってもらって行うボランティアは長続きしない。拾うよりも捨てるほうが圧倒的に簡単だからごみが増えていく。世の中には公共の場で平然とごみを捨てる人が大勢いる。中泊町ではあまり見ない光景。みんなにはそうならないでほしい。

宮越家の話をすると、勝手に庭のごみ拾いをするのはさすがに厳しい。だけど、考えるといろいろな方法がある。教育委員会と話をしたり、町文化観光交流協会に相談して、ボランティアガイドだけでなく清掃ボランティアも募集してもらうとか。

自分から機会を作ってください。これからみんなが大学に入学すると、自分のやりたいことは自分で決めて、そのための手段も自分で考えないといけない。それが社会に出て問われる能力だと思うので頑張ってください。

、中泊町があるべき未来の姿は、「若い人が住め、働ける町」「インフラが整備され、生活基盤と賃金が改
がら発展していける町」「ほかの人が住みたいと思える町」だという結論にいたった。

太さん

のを作成していて、中里地域と小泊地域の自然をできるだけ残しながら、働く場所やインフラを整備してまち
計画です。
は何か？正解は町のインフラ、特に水道料金。なぜなら人口が減っても町中に張りめぐらされた水道管の延長
なければならないから。道路インフラも同じことが言える。
ること。例えば4～5階建ての住宅を造り、再生可能エネルギーで維持費をまかなって一緒に住む。高齢者は
層階。年を重ねると段々下の階へ降りてくる。そうすると、洪水で河川が氾濫したとしてもみんな同じ場所に
る場所は高層階、若い人達は低層階の高齢者が逃げる手助けをする。これを垂直避難という。
活でも交流が生まれる。子供たちが学校から帰ってきたら低層階で遊び、高齢者のみなさんが見守る。子供た
クが減少する。家族が仕事終わりに帰ってきたら、上の階でそれぞれの生活に戻る。こうすることで住んでい
の考えを「ウィンドビィレッジ構想」と呼んでいる。
人口減少社会を生きていくためには、昔のようにみんなが密集して助け合いながら暮らしていく必要があると
最低限の長さで済むだろう。

さん、中泊愛あふれるとてもよい意見交換をありがとうございました!!
中学校で毎年順番に実施予定です。

濱舘町長vs中里中学校（生徒会執行部）

中学校懇談会　開幕

12月３日、中里中学校生徒会執行部が町長と懇談会を行い、町の取組みについて町長に質問・意見を述べました。

懇談会ではスライドを使って町長が町の取組みを説明し、生徒たちが真剣な表情で耳を傾けていました。

説明が終わると生徒から町の様々な業務に対する意見や質問が投げかけられました。さながら町長と生徒会執行部の対決のよう!!ここではその内容と町長の答えを紹介します。

津軽海峡遠泳について、もっとたくさんの人に存在を知ってもらうため、SNS活動を増やし中泊町を発信してはどうか

質問者：２年　川島 千華さん

いままで町は津軽海峡を泳ぐ人たちがいることを知らなかった。世界7大海峡という言葉も分かったのはつい最近のこと。だけど、小泊の漁師さんのなかには泳ぐ人を船に乗せている人たちもいた。いまはその情報を各種SNSで一生懸命発信している。アイディアはすごくいいと思う。

もう一歩先をいくと、ただ発信するのではなく「どう工夫すれば津軽海峡を泳ぎたいけど申請などがわからない人たち（＝情報を欲している人たち）に届くのか」になる。我々も日々考えて、津軽海峡交流フェスタなどのイベントを開いてみたりしている。

社会に出ても求められる能力なので皆さんにも日々考えてもらいたい。

再生可能エネルギーについて、風車をつくることで森林破壊になっているのではないか、町の田園風景は残してほしい

質問者：３年　新岡 姫麻莉さん

宮下知事も言っていたが、青森県には他の県にはない価値のある自然がたくさんある。それをまったく考えずに再生可能エネルギーのために自然を切り開くことはしない。

なかには法律によって開発してはいけない土地もあるが、開発可能な土地については地域住民の理解を得なければならないし、出来るだけ自然・生態系に影響が出ないようなやり方を取らなければいけない。建てたからといって自然破壊ではない。法律や住民の理解、自然への影響などをクリアしながら一定の条件で発電することで、自然破壊にならず、逆にCO_2排出量を削減して自然を守っていける。それが再生可能エネルギーの正しい使い方。

中泊町の人

質問者：

人口減少には社会減（転出）と自然減（出生
17年から人口は減り続け、現在出生数30
170人ほど人口が減っていることになる。
ている。１番人が集まるのが東京だが、全国
間は国内の人口が減り続ける前提で動かなけ
だからこそ町で食べていける、暮らしてい
食べていける政策をすすめている。
また、学校教育にも力をいれることで、将
な環境を整えている。いまはリモートワーク
国どこにいても等しく情報が手に入る世の中
のない職業選択ができれば、町の人口流出を

修学旅行先をフィリピンにす
のか、また、同年代のフィリ

質問者：３年　佐藤 愛

英語教育の連携先がなぜフィリピンた
す人たちがいて、共通の言語として英語
国語ではない英語を学ぶというノウハウ
また、フィリピンの平均年齢は20代
まれているので、同年代のフィリピンの
し、有意義なことだと思う。
会話する機会として修学旅行はまだ検
広めてもらいたいと思う。自分の将来の
負担なしで留学できるようにします。そ
とを学んできてください。

生徒会で意見をまとめた結果
善された町」「風景を残しな

質問者：２年　伏見 優

いま町では中泊町の未来予想図という
づくりをしようというのが、町の新しい
いま人口が減っていって１番困ること
は変わらず、それを半分の人口で維持し
ではどうするか。住む場所を密集させ
足の負担が少ない低層階、若い世代は高
住んでいるからすぐに逃げられる。逃げ
この生活スタイルができれば普段の生
ちが犯罪に巻き込まれたり、事故のリス
る人たちみんなの負担が少なくなる。こ
いまはまだ構想段階だが、これからの
思う。それができれば、水道管も道路も

生徒会執行部のみな

この懇談会は町内の小